

## 啓脾湯

### 1. 処方内容

人参、蓮肉、山薬各 3.0, 白朮、茯苓各 4.0, 山査子、陳皮、沢瀉各 2.0, 甘草 1.0

### 2. 出典

【万病回春 小兒泄瀉門】

○啓脾丸 食を消し、瀉を止め、疳を消し、黄を消し、腹痛を定め、脾を益し、胃を健やかにす。

人参、白朮（蘆を去り、油にて炒る）、白茯苓（皮を去る）、蓮肉（心を去る）、山薬（炒る）（各 1 両）、山査肉、陳皮、沢瀉、甘草（炙る）（各 5 錢）

右、細末となし、煉蜜にて丸となし、梧桐子の大きさの如くす。毎服 20～30 丸、空心に米湯にて下す。或いは米湯にて研り化し服するも亦可なり。

小兒常に傷食を患うるは、之を服して立に癒ゆ。

（大意）

啓脾丸は、食べた物の消化をよくし、下痢を止め、子供の気持ちを鎮め、顔色も良くなり、腹がはるのも取り、腹痛をなくし、胃腸の働きをよくして健やかにする。

（省略）

おなかをこわしやすい子供に与えれば、たちどころに回復する。

### 3. 処方名の由来

啓脾湯は、この啓脾丸を煎じ薬として使用した場合の呼び名である。「脾を啓く」とは、胃腸の働きを助け導くの意である。

### 4. 処方構成

四君子湯（人参、白朮、茯苓、甘草、大棗、生姜）の方に、蓮肉、山薬、山査子、陳皮、沢瀉を加えた構成である。

人参：元気を補う。

白朮：脾を乾かし、気を補い、泄瀉を止める。

茯苓：脾を益し陽を助ける。消化管内の水を除去する。

甘草：胃を和し、脾を益し、諸薬を調和する。

陳皮：理気化湿、開胃。

山査子：消食導滯、止瀉、消化を助ける。

山薬：健脾、扶脾、止瀉。

蓮肉：健脾止瀉、脾を強め下痢を止める。

沢瀉：利水滲湿、止瀉。下焦に働き胃腸内の湿を膀胱より排泄。

補脾、健胃の働きに加え、腎にも作用して、強力に利水、止瀉に働くように配剤されている。

## 5. 使用目標

○古典での使用目標

【古典】

「当壮庵家方口解」卷之二 北尾春圃

「調補」

四君子湯、異功散、蓮肉、白扁豆、あるいは啓脾湯、人參、白朮、縮砂、木香の属を用い、あるいは久瀉に訶子、肉豆蔻<sup>ク</sup>などを加えて瀉を調えるという意味で、またひばりなどの小鳥を焼き用いて脾胃を調え補うこともある。

(中略)

脾胃の気を補う薬味は、人參、白朮、乾姜、肉桂、附子、縮砂、木香などであり、脾胃を調えるものは人參、白朮、茯苓、山藥、蓮肉、縮砂、木香、瀉があるものには沢瀉、微熱のあるものには葛根がそれぞれ有効である。故に脾胃を調えるには、異功散、七味白朮散、啓脾湯、四味理中湯などの処方を用いる。

(中略)

脾胃が弱った場合、その一は人參、白朮、附子、乾姜、肉桂などによって胃気を補って飲食を消化させることで、これは脾胃がともに虚冷している場合の治方であり、薬の気によってその陽を助けるものである。他の1つは平和の剤で脾胃を調える場合であって、これには四君子湯、異功散、參苓白朮散、啓脾湯などの処方を用いる。

「医療手引草」中編下・泄瀉門

至十四歳者常患停食諸疾専用

14歳に至るまでの者、常に停食して諸疾を患うに、専ら用ゆ。

(註)胃腸虚弱な小児の体質改善に長期服用させる。

○臨床上の使用目標

### 1) 矢数道明

この方は四君子湯を基盤として消食の剤を加えたもので、小児疳瀉と呼ぶ。いわゆる小児の消化不良症に最もしばしば用いられるものである。他に大人にても脾胃虚弱則ち慢性胃腸炎にて諸薬応ぜぬ水瀉性下痢に広く用いられる。余は腸結核の初期に用いて卓効を収めたことがある。脈腹共に虚状にして微熱あるもよい。

応用①小児の消化不良症②慢性胃腸炎③腸結核④病後の胃腸強壮剤

「漢方後世要方解説」

## 2) 大塚敬節

慢性の下痢に用いる。真武湯や胃風湯を用いるような下痢で、これらを用いても功をみない時に用いてみるが良い。裏急後重はなく、腹痛はないかあっても軽い。泡沫の多い下痢便のことが多い。1日に1, 2回位の下痢が続く。このような時に、私は啓脾湯を用いるが、参苓白朮散を用いてもよい。 「症候による漢方治療の実際」

脾胃が虚して、消化不良あるいは軟便、水様性下痢、食欲不振の著しい者。

(脾胃気虚の下痢の代表方剤。)

虚弱児の下痢

- ・ 生来胃腸虚弱で、疲れ易い小児
- ・ 不消化便～水様便が続く
- ・ 腹痛・嘔吐を伴うこともあるがほとんどないことが多い
- ・ 胃腸型感冒で下痢だけが長引く場合
- ・ 食事をすると下痢する
- ・ 人参湯、四君子湯、六君子湯などが無効の場合

成人、高齢者の急性および慢性下痢

- ・ 顔色不良の虚弱者 (慢性下痢で用いる場合、痩せている者が多い)
- ・ 水様便が1～2回/日程度で、下痢以外の愁訴は少ない
- ・ 強い腹痛やテネスマスは通常認めない
- ・ 人参湯、真武湯処方例で、無効のもの

## 6. 臨床治験例

### ○北尾春甫 (提耳談)

50余歳の男が労役傷寒に患り、口が甘く、数方功なく、私が啓脾湯を与えると食が進んで癒えた。口中が甘いのは脾熱に属するというのが、多くは実熱ではなく、脾胃が虚して湿熱があるのであって、この場合は必ず脈が弱である。沢瀉によって滲湿するのである。

### ○大塚敬節 「症候による漢方治療の実際」

患者は映画女優で42歳。平素から胃腸が弱く、下痢するくせがある。こんどは約半年前から下痢が始まり、なかなか止まらない。そこで腸結核を疑いストレプトマイシンやパスを用いたが、それでも下痢はとまらなかった。患者はやせて脈が弱く、舌には苔がなく、腹部は軟弱で、振水音を著名にきく。月経は規則正しくある。肩がこりやすく手足は冷える。私はこれに真武湯を与え、7日分のんだが変わりなく、1日2, 3

回の下痢がやまない。そこで啓脾湯に転方したところ、2週間で下痢が1日1回となり1ヶ月あたりで下痢がやんだ。真武湯で止まらない下痢が啓脾湯で止まったり、啓脾湯で止まらない下痢が真武湯でとまったりする。

○稲木一元（同仁堂診療所） 2歳の女児の感冒後に長引く下痢

（現病歴）7日ほど前から発熱、嘔吐、腹痛。嘔吐は数回でおさまり、徐々に解熱したが、水様下痢が4日以上続いてとまらない。1日に5～6回、とくにお粥などを食べた後、腹部を押さえて「おなかが痛い」といい、泥状ないし水様便を排泄する。排便後は腹痛はなくなる様子である。水を飲みたがる。食欲は低下しており、少し元気がない。室内で遊んでいるが、じっと寝ていることはない。機嫌は悪くない。以前から虚弱で風邪をひきやすく、しばしば腹痛、下痢を起こしやすい。特にジュースやアイスクリームなどを食べた後は必ず下痢をする。（現症）やせ型、手足が細い、皮膚は軽いアトピー、手足の先が冷たい、腹部は全体に腹筋が緊張し、くすくすたがる。（経過）まず五苓散エキス5グラム分2で服用させたが、1日半の服用でも下痢が止まらない。そこで啓脾湯エキス5グラム分2に変更、2服めを飲んだ後ぐらいからほとんど普通便となり食欲も増して3日服用で平常に戻った。

○宮崎ら 漢方の臨床 Vol.43 No.2 小児下痢症に対する啓脾湯の検討

西洋薬を4日間投与して改善しなかった小児下痢症例を対象とし、これらを啓脾湯投与群と西洋薬投与群に分けて比較検討した。

下痢消失日数は、有意に西洋薬より啓脾湯投与群で短かった。

啓脾湯は、発熱など風邪症状が残留している下痢症に対しては、効果が不十分であった。

○荒河ら 漢方診療 Vol.10 No.1

漢方薬併用により副腎皮質ホルモン剤離脱に成功した潰瘍性大腸炎の3症例

再燃した潰瘍性大腸炎で、副腎皮質ホルモン剤などの薬剤減量中に、啓脾湯と・帰膠艾湯の併用開始したところ、約1ヶ月程で、粘血便・下痢・腹痛などの症状は消失、また、副腎皮質ホルモン剤などの薬剤も再燃することなく、順調に減量できた。

## IBDに啓脾湯

### 7. 鑑別

- 1) 真武湯：慢性の水様下痢で、新陳代謝の沈衰や栄養状態の低下のみられる者。小児では附子剤が使いにくいので、真武湯を使うところを啓脾湯を用いることが多い。
- 2) 人參湯：啓脾湯より胃腸機能の低下、(胃内停水、口中に唾など) 手足の冷え。
- 3) 六君子湯：食欲低下を主とする
- 4) 桂枝加芍薬湯：腹痛、腹部膨満感が比較的強い。
- 5) 小建中湯：胃腸虚弱で痩せた小児の体質改善薬として用いる。反復性臍疝痛と下痢が主。
- 6) 胃風湯：大腸炎を疑わせる徴候。下腹痛、不消化下痢便、残便感。

7) 参苓白朮散：気滞の傾向がある、腹鳴。

「鑑別はなかなかつけがたいことがあり、実際に使ってみて、その効果を知るほかに多い。」 矢数道明「臨床応用漢方処方解説・増補改訂版」

(参考)

異功散 (四君子湯加陳皮)

人参、白朮、茯苓、大棗、甘草、生姜 陳皮

七味白朮散

人参、白朮、茯苓、甘草、葛根、藿香、木香

四味理中湯

= 乾姜黄連黄芩人参湯

参苓白朮散

白扁豆、蓮肉、桔梗、縮砂、薏苡仁、人参、茯苓、白朮、甘草、薯蕷